

小寺臨床講読ワークショップ（Clinical Reading Workshop）

フロイトの系統的理解：第V期 2. 精神分析の完成期（1910-1920）

本ワークショップのご案内

本ワークショップは、参加時間の中でフロイト読解を体験して、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指します。2019年度は、完成期に入ったフロイトによるナルシシズム・精神病への新たな取り組みと、技法論文およびメタ心理学論文に含まれている興味深い概念を取り上げると同時に、臨場感ある現代論文を参照します。

フロイトの著作は今も基本であり発想の源泉ですが、読み進めるのは、容易ではありません。精神分析が理論的にも臨床的にも整備された1910年代の著作は、創成期に比べれば取っ付きやすくて、対象関係論や現代の精神分析とはまだ距離があります。グループで読み進めることによって、理解は深まり、初学者の方も経験ある方も、新鮮なフロイトに触れることができるでしょう。3年間で全体をカバーする予定です。2年目の本年度も受け付けますので、継続の方も新規の方も奮ってご参加ください。

テキスト：フロイトの論文を系統的に講読します。詳しくは **Reading List** を参照ください。ジャン-ミシェル・キノドス『フロイトを読む』（岩崎学術出版社刊）を参考書とします。

日程：2019年4月以降の第三金曜午後7時～10時（7月・10月以外）
2020年3月20日午前9時30分～午後5時30分

講師：福本修（3月20日に十川幸司ゲスト講師予定）

ところ：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム
新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

受講料：60,000円

定員：20名程度。テキストを読んで参加できる方。臨床経験の多寡は問題ではありません。必要な場合、選考があります。連絡のため、メールアドレスを必ずお書きください。

申込方法：申し込み用紙に必要事項を書いて、Eメール、FAXまたは郵送してください。受講の可否を申込書記載のアドレスまたは葉書きにてご連絡いたします。振込先をご確認の上、受講料をお振込みください。

〒160-0004 新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

小寺記念精神分析研究財団事務局 Fax：03-3350-9749

E-mail：kodera.kt@nifty.com

申込期限：2019年4月15日（月）

少人数に限定されておりますので、お申込後の取り消し、ご欠席等のないようにご留意ください。

主催 小寺記念精神分析研究財団

Reading List: Reading Freud and post-Freudian ideas Year 2 (4)

日程は、諸事情により変更する場合があります。フロイトの邦訳に関しては、岩波書店版フロイト全集（全と略）を御参照ください。SEは **Standard Edition** の略です。

1. [4月19日] 人物研究とナルシシズム論の端緒

「レオナルド・ダ・ヴィンチの幼年期の思い出」（全 11, 1-97 ; SE XI, 57-137）

※ **Blass, R.B. (2006). A Psychoanalytic Understanding of the Desire For Knowledge As Reflected in Freud's Leonardo da Vinci and a Memory of his Childhood1. *Int. J. Psycho-Anal.*, 87(5):1259-1276**

※ **Lewes, K. (1998). A Special Oedipal Mechanism in the Development of Male Homosexuality. *Psychoanal. Psychol.*, 15(3):341-359**

2. [5月17日] 快原理と現実原理

「心的生起の二原理に関する定式」（1911）（全 11、259-267 ; SE XII, 213-226）

※ **Aguayo, J (2016). Filling in Freud and Klein's maps of psychotic states of mind: Wilfred Bion's reading of Freud's "Formulations regarding two principles in mental functioning". In *On Freud's "Formulations on the two principles of mental functioning,"* Ch1, Karnac Books.**

※ **Bell, D (2016). The world as it is vs. the world as I would like it to be: contemporary reflections on Freud's "Formulations regarding two principles in mental functioning". In *On Freud's "Formulations on the two principles of mental functioning,"* Ch2, Karnac Books.**

※ **Chivitarese, G (2016). Where does the reality principle begin? The work of margins in Freud's "Formulations regarding two principles in mental functioning". In *On Freud's "Formulations on the two principles of mental functioning,"* Ch5, Karnac Books.**

3. [6月21日（変更可能性あり）] フロイトの技法論（1）：治療の開始

「精神分析治療に際して医師が注意すべきこと」（1912e）（全 12、247-257 ; SE XII, 109-120）

「治療の開始のために」（1913c）（全 13、241-270 ; SE XII, 121-144）

※ **Reith, B, Møller, M, Boots, J, Crick, P et al. (2018). Facing the storm and creating psychoanalytic space: the vicissitudes of the analytic couple in first interviews. In *Beginning psychoanalysis. On the Processes of Initiating Psychoanalysis,* Ch5, Routledge.**

※ **Marucco, NC (2012). Conflicting forces. On the beginning of the treatment. In *On Freud's "On Beginning the Treatment,"* Ch5, Karnac Books.**

[7月19日] 都合により7月は休講とします。

4. [8月16日] フロイトの技法論(2) : 転移理解と解釈

「転移の力動論にむけて」(1912b) (全12、209-220 ; SE XII, 97-108)

「想起、反復、反芻処理」(1914g) (全13、295-306 ; SE XII, 145-156)

※ **Lemma, A (2013). Transference on the couch.** In *Transference and Countertransference Today*, Ch7, Routledge.

※ **Reith, B, Møller, M, Boots, J, Crick, P et al. (2018). Countertransference and enactment.** In *Beginning psychoanalysis. On the Processes of Initiating Psychoanalysis*, Ch9, Routledge.

5. [9月20日] ナルシシズム概念の導入

「ナルシシズムの導入にむけて」(1914c) (全13、115-151 ; SE XIV, 67-102)

※ オイディウス : 「ナルキッソスとエコー」『変身物語(上)』pp113-121、岩波文庫.

※ **May, U (2018). How the concept of narcissism came into being: from Ellis and Nücke to Sadger and Freud,** In *Freud at Work*. Ch1, Routledge.

※ **Ellman, S. (2014). Traversing Narcissistic Pathways: From Freud to Present Times.** *Psychoanal. Inq.*, 34(5):394-407

[10月18日] は日本精神分析学会札幌大会中のため、開催しません。

6. [11月15日] 症例狼男の研究 : 原光景と境界精神病

「ある幼児期神経症の病歴より [狼男]」(1918b [1914]) (全14、1-130 ; SE XVII, 1-122)

※ ルース・マック・ブランズウィック (1928) フロイトの「ある幼児期神経症の病歴より」への補遺。ミュリエル・ガーディナー『狼男による狼男——フロイトの「最も有名な症例」による回想』第II部。Brunswick, R.M. (1928). **A Supplement to Freud's 'History of an Infantile Neurosis'.** *Int. J. Psycho-Anal.*, 9:439-476.

※ マーク・カンザー (1977) 狼男再考——原光景の探究。ジュール・グレン+マーク・カンザー編『シュレーバーと狼男』第8章、金剛出版、2008.

※ ハロルド・P・ブルム (1977) 原光景の持つ病因的影響——再評価。ジュール・グレン+マーク・カンザー編『シュレーバーと狼男』第9章、金剛出版、2008.

7. [12月20日] フロイトのメタ心理学(1) : 無意識について

「無意識」(1915e) (全14、211-254 ; SE XIV, 159-215)

「抑圧」(1915d) (全14、195-210 ; SE XIV, 141-158)

※ **Chivitarese, G (2016). Giving body to the mind: a comparison between Freud's and Bion's metapsychologies,** In *Truth and the Unconscious in Psychoanalysis*, Ch7, Routledge.

※ **Reith, B (2007). Complementary models of the mind in Freud's "The unconscious"?** In *On Freud's "The Unconscious"*, Ch6, Karnac Books.

8. [1月17日] フロイトのメタ心理学(2) : 対象喪失

「喪とメランコリー」(1917e [1915]) (全14、273-293 ; SE XIV, 237-258)

※ Schimmel, P. (2018). Freud's "selected fact": His journey of mourning. *Int. J. Psycho-Anal.*, 99(1):208-229.

※ May, U. (2012). Karl Abraham's Revolution of 1916: From Sensual Sucking to the Oral-Aggressive Wish of Destruction. *Psychoanal. Q.*, 81(1):83-109

9. [2月21日] 女性同性愛の精神分析 RF : pp.177-182. 「女性同性愛の一例の発生史について」(SE XVIII, 145-172; 全17、237-272 ; 著XI、30-58)

※ Downey, J.I. and Friedman, R.C. (2008). Homosexuality: Psychotherapeutic Issues. *Brit. J. Psychother.*, 24(4):429-468.

※ Flanders, S. Ladame, F. Carlsberg, A. Heymanns, P. Naziri, D. Panitz, D. (2016). On the Subject of Homosexuality: What Freud Said. *Int. J. Psycho-Anal.*, 97(3):933-950.

10. [3月20日午前9時30分~12時] 不気味なものと不安

「不気味なもの」(1919h) (全17、1-52 ; SE XVII, 217-256)

※ Zilcosky, J. (2018). 'The Times in Which We Live': Freud's The Uncanny, World War I, and the Trauma of Contagion. *Psychoanal. Hist.*, 20(2):165-190.

※ Barnaby, A. (2015). "After the Event": Freud's Uncanny and the Anxiety of Origins. *Psychoanal Q.*, 84(4):975-1006.

11.+12. [3月20日午後1時~5時30分]

特別編：十川幸司先生をお迎えして

※ 講義：「1910年代のフロイトの歩み」(仮題)

講師：十川幸司先生(十川精神分析オフィス)

司会・討論：福本修

小寺臨床講読ワークショップ参加申込書

参加申込書は、下記住所まで郵送またはFAXにてお送りください。

〒160-0004 新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

小寺記念精神分析研究財団事務局

FAX : 03-3350-9749 E-mail : kodera.kt@nifty.com

申込締切：4月15日（月）

申込 月 日

| | | | |
|-------------------|---------------|-------------|-------|
| フリガナ 氏 名 | | 男・女 (19 年生) | |
| 勤 務 先 | | | |
| 所 属 | | 職 種 | 経 験 年 |
| 連絡先住所 自宅・勤務先 | (どちらかに○) 〒 | | |
| 電話(携帯可) 自宅・勤務先 | | e-mail アドレス | |

セミナーの内容は、臨床心理系大学院修士課程修了程度の知識を前提としています。今期は、精神分析の完成期を扱います。参加者のメンバー構成および採否に関しましては、当方にご一任いただきます。決定次第、メールまたは葉書にてご連絡いたします。振込先は、その際ご案内します。

教育・研修歴（最終学歴・研修機関のほか、これまで参加した系統講義・セミナーなど）

本ワークショップへの参加動機

基本知識（〔 〕内の該当するものに○をしてください）

最も印象に残るフロイト論文：①

②

③

キノドス『フロイトを読む』は〔既読・未読・読むつもり〕

西園昌久監『現代フロイト読本』は〔既読・未読・読むつもり〕

英語力は〔十分ある・時間を掛ければ読める・ほとんど読めない〕

その他（あればご自由にお書きください）

本セミナーの案内をどのようにして知りましたか？該当するものに○をお付け下さい。

郵便・ホームページ・メール・知人の紹介・その他（ ）

※記載いただいた個人情報は、セミナーのご連絡及びご案内のみに使いたしません。